

再発性、難治性のクロストリジウム・ディフィシル感染症への 糞便細菌叢移植に凍結便も有効

再発性、難治性のクロストリジウム・ディフィシル感染症の治療には糞便細菌叢移植が有効であるとする研究が報告されているが、新鮮で安全な糞便を用いる治療は容易には行えない。凍結解凍した便を用いることができれば、糞便細菌叢移植の実施が容易になる。そこで本研究では、再発性または難治性のクロストリジウム・ディフィシル感染症患者を対象に、凍結解凍糞便を用いた糞便細菌叢移植の臨床効果が、新鮮便を用いる標準的な糞便細菌叢移植の効果に対して非劣性であるかどうかを検討し、安全性についても評価した。

2012年7月から2014年9月まで、カナダの6つの大学病院において、18歳以上で再発性または難治性のクロストリジウム・ディフィシル感染症患者232例が登録された。患者は、凍結糞便細菌叢移植群（凍結便群）と新鮮糞便細菌叢移植群（新鮮便群）にランダムに割り付けられた。凍結便群の108例と新鮮便群の111例を解析の対象とした。結果、下痢が消失し再発も無かった患者の割合は、凍結便群が75.0%、新鮮便群は70.3%（差4.7%、非劣性の $P<0.001$ ）だった。有害事象や重症有害事象の発生率に差はなかった。

したがって、再発性または難治性のクロストリジウム・ディフィシル感染症に対する便細菌叢移植に用いるドナーの糞便は、凍結保存したものでも、新鮮なものと同様に有効性と安全性は劣らないことが示された。

出典：Journal of American Medical Association. 2016; 315(2): 142-149